

# 臨床・教育ボランティア

オーガナイザー

教育研究開発センター 教授 村田顕也

## I. 授業の目的

臨床や教育のボランティアを介して、コミュニケーションや患者の方々の気持ちを理解し、ケアマインドを養う。

## II. 到達目標

1. 小児とコミュニケーションがとれる。
2. 高齢者とコミュニケーションがとれる。
3. 病める人の心に共感できる。
4. エスコートができる。
5. 教育のためのボランティアができる。

## III. 教育内容

1. 緩和ケア病棟でのボランティア
2. 観光医学でのボランティア
3. オープンキャンパスでのボランティア
4. 共用試験 OSCE での模擬患者
5. 小児科病棟でのボランティア
6. 救急蘇生 (BLS, ACLS) 実習での介助ボランティア
7. 病院内エスコート
8. その他、大学が認めたもの

## IV. 教育方法

1. ボランティアを行うものは事前に学生課に申請書を提出し、登録する。
2. ボランティアの期間は、カリキュラム上のボランティア期間および講義・実習の時間外および休校日とする。

## V. 評価の方法

- 1年に一回以上、ボランティアに参加することを求める。  
参加の多い学生については、顕彰する機会を設ける。